



Title	「医療と文化」（リン・ペイヤー著；円山誓信，張知夫訳；世界思想社）
Author(s)	高山，佳洋
Citation	大阪公衆衛生．1999，72，p. 24-24
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83551
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

書評

「医療と文化」

リン・ペイヤー著 圓山誓信／張 知夫 訳 世界思想社

大阪府保健予防課

高山佳洋

あの張先生が、翻訳して私たちに紹介しようとしていた本があった。このたび、先生のさりげない行動と懐深い考え方に大きく共鳴し、同じ公衆衛生を実践し、英語も同様に深く読みこなす力量をお持ちの圓山先生（現豊中保健所長）が、張先生の遺稿を引き継いで、そのうちの一つである本書を完成された。

「私はものぐさなんですよ。」と、よくハイボールを傾けながら自嘲気味におっしゃっていた張先生が、どんな本の翻訳を通して私たちにどんなメッセージを寄せられようとしていたのか、すこぶる興味があったので一気に読み通した。類書の希有な面白い医療論だなど思いつつも、最初は存外軽妙な感じで読み終えた。

本書では健康指標がおおむね同じであって、医療水準もほぼ同じであるが、文化的には大きく異なる欧米先進諸国のあいだの医療について、驚くほど多くのギャップが存在することが「客観的な統計と、批判的な観察と、生き生きした実話」で描き出されている。「しかし、このギャップそれ自体は重要ではない。重要なのは、人々がそういったギャップの存在と、なぜそれが存在しているのかを知っていること、そして、私たちがいろいろな文化圏の人たちと話をするとき、無知であったり偏見をもったりするのではなく、理解していることなのである。」と、いずれの「価値観」にも組みしなない著者の姿勢が、張先生を彷彿とさせてなるほどと納得した。

混迷の度を深める転換期の日本の保健、医療、福祉を考えると、その時々高声の単一の価値観に引きずられるのではなく、時間をかけて様々な価値観によるものの考え方を検討することの重要性をあらためて認識させてくれる好著である。張先生のひそみにならって、バーボンを片手に読むと、なお味わい深く楽しめること請け合いである。

